

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教 育委員会等	実施機関名・連携機関名 ※実施機関名、及び連携機関名（ある場合のみ）を記載してください。 国立大学法人福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科
コラボ研修プログラム	事業名：【NITS・福井大学連合教職大学院コラボ研修】 「子ども×大人、フィールドワークをとおして『共創力』を高める協働探究 DEAL 教員研修」 -教師の主体的、対話的で深い学びの実践と実現-
支援事業報告書	研修等名：【NITS・福井大学連合教職大学院コラボ研修】 「子ども×大人、フィールドワークをとおして『共創力』を高める協働探究 DEAL 教員研修」 -教師の主体的、対話的で深い学びの実践と実現
	開催日時：令和6年10月19日（土）～20日（日） 開催場所：宮古島市役所会議室（沖縄県宮古島市平良字西里1140番地） 参加人数（総数）と参加者の属性：（70人）一般教員25人、主幹教諭5人、幼小中高校管理職10人、民間企業等12人、沖縄県宮古島市教育委員会1人・宮古島市役所社会教育課1人・子ども未来課1人、東京都渋谷区教育委員会1人、大学教員2人、教職大学院教員6人、教職大学院生6人

目的：

新たな教員研修の在り方を問い、子どもたちの学習観の転換を図る主体的な学びを支えるために、子どもの学びと相似形である教師の「主体的、対話的で深い学び」の教員研修を開催する。また、協働探究の実体験 FW（フィールドワーク）を実施し、地域、職種、学校種を超えて教師・参加者同士が探究し学び合う DEAL（ディープ・アクティブ・ラーニング）教員研修およびラウンドテーブルとする。なお、本教員研修は、埼玉県立越谷特別支援学校に協力いただき企画をしたものである。

内容：※全体発表の内容をテブ起こしするなど、具体的に記載してください。

〇10/19（一日目）

- ・特別支援学校（中学生）が考案した「宮古島バリアフリー探究コース」を参加者による協働探究 FW
- ・省察と FW 研修の報告レポートおよび記録の整理を各グループで作成

〇10/20（二日目）

① 全体会・パネルディスカッション（一日目の協働探究フィールドワークの共有）

- ・パネラー：福井大学連合教職大学院 准教授 宮本雄太
- ・パネラー：宮古島市城辺世代間交流複合施設 施設長 小祿朝也
- ・パネラー：東京都渋谷区教育委員会 主任スクールソーシャルワーカー 平沢安正
- ・コーディネート：福井大学連合教職大学院 特命教授 福島昌子

はじめ、特別支援の子どもたちへの協働探究のアプローチの支援の在り方について意見交換がなされ、その後、教育活動全般にわたる協働探究の在り方、授業実践の支援の方向、課題等について参加者共有した。

② 実践報告ラウンドテーブル「相互的なリフレクションと展望」

福井大学連合教職大学院コーディネーターリサーチャー加藤悟氏、前田香織氏をはじめ、同大学院教員を含め 15 名のファシリテーターが中心にラウンドテーブルをおこない、少人数のグループで協働探究 FW の振り返りと共に日常の実践について共有し、聞き合い語り合う学びの研修を行った。最後に各グループの出された意見をシェアする時間を設けた。

午後からは、海上保安庁第十一管区宮古島支部の協力の下で、任意参加による離島の海の保全について FW を開催した。2 日間にわたる教員研修が、宮古新報、宮古毎日に掲載された。

成果：参加者の声より

- ・パネルディスカッションでは、パネラーの先生方の意見を伺い、多方面からの支援のあり方や、子ども達を取り巻く社会の中で、私だったら何が出来るのか深く考えるきっかけとなりました。又、ラウンドテーブルで、様々な意見交換をする中で、自分では見出せなかった思考や考え、探究するとはどのような事なのか等、私だったらどうするのか？明日からの仕事にどの様に活かせるのか、こども達との関わりの中で、こども達の心持ちに寄り添いながら考える事の重要性を再認識する事が出来ました。
- ・一人ひとりの考えたテーマに寄り添うことを、ゆっくりとじっくりと向き合う演習体験は、現場にいて、できているようで難しいことなので、実際にやってみて五感をフルに使った言葉では言い表せない感覚まで味わえたことです。
- ・本当に子供に寄り添うということの意味を考えさせられました。特別支援の子だけでなく、自分が関わってきた子

供たちにどう向き合うべきだったのかを反省させられ、まさに本当の教育への協働探究の場となりました。

- ・自分が体験し感じたことを、改めて言葉にして、さらに共有できたことでより深められました。私たちはどこかでいつも、効率を優先してきてしまったのかもしれませんが。グループの方の子供への観が変わったという言葉に本当に共感しました。これまでのいろいろな研修に参加した中で最も深いものが得られた気がしました。
- ・問いの大切さを改めて感じました。様々な事柄に問うてみることで、自分自身と向き合い考えが整理されていくこと。自分の課題に気づく事ができました。今後は一つ一つ向き合いながら取り組み、改善していきたい。視点を広げることの大切さ。答えは一つじゃない。多様な方法がある中で、自分にあった方法で取り組むことで、解決策が見えてくる。行動する事で気づきがあり、考えが深まるラウンドテーブルでした。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気づき

提案（第一次）「5つの共通言語」を踏まえた上で、なかでも「探究型研修」「学び合いのコミュニティ」を意識した研修とした。「探究型研修」においては、主催者を含め多種多様な校種・役職、地域の参加者で協働探究の実践・演習（フィールドワーク）、レポート作成、記録の整理をおこなったことで、実体験と共に自己省察をより深めることができた。また、「学び合いのコミュニティ」においては、広域の参加者でラウンドテーブルを開催したことで、参加者が自身や組織の「枠組み」、「在り方」などに気づき、これまでの既成概念を再構築していくことができた。さらには本研修によって参加者が「学びのコミュニティ」のネットワークを全国に広げ、繋げる素地となる研修であることの気づきを得られた。

アイデアや工夫したこと： ※実際の様子により分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明してください。

（一日目）FW、ガイダンス・グループごとの活動



（二日目）ラウンドテーブル、FW

